

島根大学プロジェクト研究推進機構 『萌芽研究部門』		平成 19 年度	年度報告書	提出日 平成 20 年 2 月 25 日
① プロジェクト名	山陰地方における歴史・文化資源の発掘と活用に関する研究プロジェクト			
② プロジェクトリーダー	田中 則 雄	所 属	法文学部	
		電子メール	tanakano@soc.	
③ プロジェクトの概要 (プロジェクトの最終年度における到達目標を簡潔に記入してください。)				
<p>山陰地方には、たたら製鉄の史料や遺構、独自の和歌文学など多くの歴史・文化資源が存在しており、現時点で未発掘のものも多く存する。また調査研究成果の地域住民に向けての公開など、利活用のあり方についても、本格的な開発研究の余地が多く残されている。</p> <p>本プロジェクトは、山陰地方の歴史・文化資源の発掘、調査研究、及びその利活用の方法構築に向けての取り組みを、人文・社会科学系の研究者が共同で組織的に行うという新しい試みである。なお既に昨年度の萌芽研究部門研究プロジェクト「島根県における歴史的文化的遺産の景観復元に関する学際的研究—石見銀山・出雲大社・松江を中心として—」、及び昨年度までに実施した法文学部山陰研究センターにおける研究プロジェクトによって得られた研究成果に基づきつつ発展を図るものである。</p> <p>「ひと」「なりわい」「まち」をキーワードに設定し、過去の時代における山陰地域の人々の生き様を掘り起こし、具体的に描き出し、地域住民に向けて発信すること、またその発信方法自体を開発研究することを目標とする。</p>				
④ プロジェクトのメンバー及び役割				
氏名	所 属 (職)	本年度の役割分担		
田中則雄	法文学部(教授)	【プロジェクトリーダー】プロジェクトの総括。堀文庫・大森文庫の調査研究、目録の作成、解説冊子の作成(文学資源チーム)		
蘆田耕一	法文学部(教授)	手銭家蔵本を中心とする出雲歌壇関係資料の調査研究、目録の作成、翻刻(文学資源チームリーダー)		
要木純一	法文学部(教授)	入谷文庫を中心とする山陰漢詩関係資料の調査研究、目録作成(文学資源チーム)		
竹永三男	法文学部(教授)	福岡世徳・田中梅治の事績史料の整理・分析。佐々田懋関係史料の調査(プロジェクトサブリーダー、歴史資源チームリーダー)		
廣嶋清志	法文学部(教授)	石見銀山領の宗門改帳による村々の出生率・結婚率の分析、農民の生活状態の解明(歴史資源チーム)		
相良英輔	教育学部(教授)	近世期、明治前期、松江藩におけるたたら生産と流通についての史料分析。田部家文書の整理、目録作成(本年度整理完了分を対象とする)(歴史資源チーム)		
大日方克己	法文学部(教授)	『出雲国風土記』の注釈・研究書と関係資料の調査研究(歴史資源チーム)		
野田哲夫	法文学部(教授)	行政、教育、産業と連携した歴史・文化資源の利活用方法の研究と産官学共同の研究体制の構築(利活用方法構築チームリーダー)		
飯野公央	法文学部(准教授)	地域資源を活かした自治体産業政策の研究、歴史・文化資源を活かした観光政策の研究(利活用方法構築チーム)		
作野広和	教育学部(准教授)	GISを含めたデータベースの構築方法の研究。地域関係資料のデジタルコンテンツ化とその利用手法の研究(利活用方法構築チーム)		
会下和宏	ミュージアム(准教授)	パンフレット・ホームページ等を活用した地域資源の情報発信と利活用の実践。「フィールドミュージアム」化を視野にいたした大学周辺地域資源の調査研究と利活用に向けての研究(利活用方法構築チーム)		

⑤ 本年度の研究計画と目標（本年度当初の計画書に書かれた内容に沿って、計画と達成目標を箇条書きにしてください。）

【文学資源チーム】

1. 「ひと」「まち」をめぐる研究

出雲歌壇関係の和歌資料について

- (1) 本学附属図書館・手銭家蔵本を中心に調査を実施し、目録作成、貴重資料の翻刻紹介を行う。
- (2) 電子的方法による公開、利活用に向けて必要な解説文を作成する(利活用方法構築チームと連携)。

2. 「なりわい」をめぐる研究

本学附属図書館所蔵の島根県伝来の文庫である堀文庫・大森文庫の蔵書の調査し、地域文化史的観点からその意義、特色を明らかにし、紹介冊子の発行に向けて必要な解説文を作成する。

山陰漢詩関係資料について、新出資料を調査研究し、その意義についての解説を付して公開する。島根県立図書館入谷文庫の調査研究を行い、目録を作成する。

【歴史資源チーム】

1. 「ひと」をめぐる研究

初代松江市長・福岡世徳、「文字をもつ伝承者」田中梅治、島根県屈指の大地主佐々田懋の地域振興事績の研究、近世・近代における『出雲国風土記』研究者の注釈の研究、石見銀山領の宗門改帳分析に基づく農民生活とライフコースの実態分析を行い、その成果をウェブ上で公開する。

2. 「なりわい」「まち(むら)」をめぐる研究

近世・近代におけるたたら生産と流通について、地域産業の展開の観点から史料分析を行い、その成果を論文にまとめる。また、田部家文書の整理・目録作成のための準備作業を行う。

「ひと」の活動とその「なりわい」がどのような「まち(むら)」を作り上げたのかの分析を通して、近世・近代の山陰の地域像の具体的究明を行う。

【利活用方法構築チーム】

1. 文学・歴史資源の可視化

文学資源、歴史資源の両チームの基礎作業と連携しつつ、選定した資料に関して、電子的方法、また冊子等の紙媒体を用いての可視化を行う。また、松江白瀉天神町絵図の現代地図との重ね合わせを行うことにより、新たな地域資源の発掘と住民参加の糸口を見いだす。

2. 文学・歴史資源の利活用方法の構築

行政、教育、産業と連携した歴史・文化資源の利活用のあり方について、松江市とも共同した地域 SNS の構築を行うなどの実践と試行を通じて、その方法構築を行う。

地域資源を活かした自治体産業政策、歴史・文化資源を活かした観光政策について具体的提言をまとめる。

パンフレット・ホームページ等を活用した地域資源の情報発信に関して、効果的方法を研究し実践する。

3. 将来の大学周辺地域資源の調査研究と利活用に関する提言、課題整理

本研究の研究実践成果を、将来的に「フィールドミュージアム」化を視野にいたした大学周辺地域資源の調査研究と利活用にどのように活かせるかを明らかにし、課題等をまとめる。

⑥ 計画の達成状況と自己評価（前項で記載された計画の達成状況を項目毎に記載してください。また、年度目標に対する達成状況を項目毎に以下の基準に従って自己評価してください。A：目標以上に成果をあげた、B：ほぼ目標通りの達成度で予定した成果をあげている、C：計画より遅れ気味であるが年度末には目標達成が可能である、D：年度末までに目標達成は不可能である。Dの場合はその原因についても記載してください。）

【文学資源チーム】

1. 「ひと」「まち」をめぐる研究 A

本学附属図書館・手銭家蔵の出雲歌壇関係の和歌資料について調査を実施し、データベースの基礎となるエクセル版目録を作成した。これらの中から、特に近世末期の出雲歌壇を知る好個の資料であり、しかも未紹介である『丁巳出雲国五十歌撰』『出雲国三十六歌仙』『戊午出雲国五十歌撰』『花のしづ枝』の翻刻、解題を執筆し、これを冊子に編集して刊行した(『出雲国の四歌集』)。桑原文庫(本学附属図書館)の和歌関係資料の展示を行い(10月27、28日、くにびきメッセ)、その解説目録冊子を編集刊行した。上記2点の刊行物を、和歌文学会全国大会(開催校・島根大学)に出席の和歌文学研究者、および来聴した市民に配付して、出雲歌壇の意義を顕彰した。

『出雲国名所歌集』『出雲国名所集』の画像 CD-ROM(付地名索引)を制作し、島根県内の関係諸機関に配付した。附属図書館と共同で、附属図書館所蔵、大社図書館所蔵の出雲関係の文学資料をデジタル化した(撮影、デジタルデータの作成については、利活用方法構築チームと連携して実施した)。

特に『石見名所集方角図解』(斎藤茂吉旧蔵)については、これを附属図書館と共同で購入し、デジタル画像化し、ネットワーク上で閲覧できるようにした。

2. 「なりわい」をめぐる研究 A

本学附属図書館所蔵の堀文庫に関して調査を進め、近世後期から明治期にかけて津和野で営業した貸本屋の旧蔵書であることの地域文化史的意義について、7月31日、「島根県立図書館郷土資料モニター連絡会議」における講演会で発表した。また「学舎のお宝」展において、堀文庫のコーナーを設け、解説を付して展示した。

大森文庫の蔵書を調査し、大森泰輔(近世後期安来の医師、華岡青洲門人)の医学的業績が、思想・文学等

文化的方面の業績と有機的に結合していることを明らかにし、大社図書館古文書講座において発表した(6月30日他、計5回)。また附属図書館・島根県立図書館・松江市立図書館との連携により、大森文庫をテーマとする展示・および講演会を実施することとし、準備を完了した(3月9日講演会、9～14日展示、島根県立図書館にて)。

大森文庫の資料の中から『道話雑記』(泰輔の心学講義ノート)の画像CD-ROM(付解題)を制作し、島根県内の関係諸機関に配付した。

漢詩の新出資料『松江竹枝』について新出資料を調査し、明治初期の松江の様子がうかがえるという意義があることを明らかにし、論文として公表した。島根県立図書館入谷文庫の調査を行い、目録の基礎稿を作成した。

【歴史資源チーム】

1. 「ひと」をめぐる研究 B

初代松江市長・福岡世徳、「文字をもつ伝承者」田中梅治に係る研究成果をとりまとめて共同研究会で発表するとともに、既発表論文のPDF化を行った。福岡世徳の新たな公務日記2冊を複写整理し、佐々田懋日記(全9冊、浜田市立図書館預託)の調査を実施した。石見銀山領の宗門改帳分析に基づく出生率の特質を、浄土真宗信仰との関連で分析し、論文として公表した。近世、近代における『出雲国風土記』の注釈・研究関係資料を調査し、その成果を1月の共同研究会で報告した。

2. 「なりわい」「まち(むら)」をめぐる研究 B

田部長右衛門家文書の調査・整理を実施し、近世から明治前期におけるたたら製鉄の生産と流通について、地域産業の展開という観点から史料分析を行い、論文として発表した。鉄の歴史博物館(雲南市吉田町)所蔵の田部家関係史料を分析し、翻刻と論文を作成した。これらの調査研究により、鉄が出雲から航路で東北地方へと輸送されていたことが明らかになり、そのことに関わっての地域像について具体的に究明した。

【利活用方法構築チーム】

1. 文学・歴史資源の可視化 A

『出雲国名所歌集』『出雲国名所集』の撮影、デジタルデータの作成を、文学資源チームと連携して実施した(9月～)。また10月からは図書館と共同で学内の文学資源(桑原文庫など)のデジタルデータ化を進め、Web化、CD-ROM化した。また出雲の和歌に関して、地名や地形などと絡めながらパソコン上で閲覧できるシステムを制作し、これを島根大学公開講座(高校生対象)において活用した。

松江白潟天神町絵図の現代地図への重ね合わせを行うため、同定ポイント析出のためのフィールドワークを行った。また松江市白潟本町および天神町住民への全戸ヒアリング調査を実施した(9月)。その結果、近世期に作られた松江白潟天神町絵図を現代の地籍図に重ね合わせることに成功した。

2. 文学・歴史資源の利活用方法の構築 B

松江市SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を活用して松江市を含めた行政、教育、産業との連携のための協議を進めた。また文学資源に基づく地域の先行事例として、松山市(「坂の上の雲」による観光振興)において行政担当者、などから聞き取り調査を実施し、その成果を論文化した。

3. 将来の大学周辺地域資源の調査研究と利活用に関する提言、課題整理 B

島根大学松江キャンパス周辺の歴史・文化資源を調査研究・地図化し、一部を島根大学ミュージアムのホームページ上で公開した。将来的な大学周辺のフィールドミュージアム化と島大旧奥谷宿舎のサテライトミュージアム化を射程に入れて、地域市民と学習会や意見交換会を開催した(5月26日、9月26日)。

なお本プロジェクトの研究成果に基づきながら、松江市市街地整備課と協力して、中心市街地活性化基本計画に奥谷宿舎周辺の整備計画を盛り込み、将来的な登録文化財群のまちとして整備するための基本計画を策定する作業に着手するに至った。

⑦ **公表論文、学会発表など**(別途添付していただく個人調書の中から平成19年度末までに発行される学術雑誌等(紀要も含む)に掲載が確定しているものも含め、代表的なものを10件程度選んでください。発明等に関しては差し支えない範囲で記載してください。)

○刊行物

蘆田耕一編著『出雲国の四歌集』(2007年10月)

蘆田耕一編『桑原文庫展示目録解説』(2007年10月)

田中則雄他編『出雲国に伝播した華岡流医術とその時代』(大森文庫解説)(2008年3月)

会下和宏編『島根大学の国登録有形文化財』(パンフレット、2007年6月)

会下和宏編『松江・温故知新・いにしへのまちめぐり(橋北篇)』(携帯マップ、2008年2月)

○論文

田中則雄「島根大学堀文庫について」(『国語教育論叢』第17号、2008年3月)

田中則雄「文化人としての大森泰輔」(『出雲国にもたらされた華岡流医術の世界』所収、2008年3月)

要木純一「『松江竹枝』について」(『島大図文』第32号、2008年3月)

相良英輔「近世後期松江藩におけるたたら製の生産と流通」

(『近世・近代の中国地方—たたら製鉄・石見銀山と地域社会』所収、2008年3月)

廣嶋清志「石見銀山領の宗門別出生率・結婚率について」(同上書所収)

作野広和「近世絵図のデジタルコンテンツ化と活用技法」(同上書所収)

野田哲夫「エンタープライズ領域におけるオープンソース・ソフトウェア導入の課題と可能性」

(「島根大学法文学部紀要法経学科編 経済科学論集」第34巻、2008年3月)
飯野公央「情報化時代の観光まちづくり・松山市を例に」(同上誌所収)
会下和宏「島根大学(松江キャンパス)周辺の歴史・文化資源について」
(「島根大学ミュージアム年報・平成19年度」、2008年3月)

○学会発表

田中則雄「栗杖亭鬼卵の読本と実録」(日本近世文学会秋季大会、2007年11月11日、佐賀大学)
野田哲夫「オープンソース・ソフトウェアの生産性と地域情報産業振興」
(日本社会情報学会合同研究発表大会、名古屋大学、2007年9月9日)
野田哲夫「産官学連携による実践的人材育成の取組み」
(第11回学術情報処理研究集会、島根大学、2007年9月14日)

⑧ 外部資金の獲得状況, その他, 特筆すべき成果 (開催済みのシンポジウム, 産学連携・地域連携に関する各種見本市, 展示会への出展なども含む)

○科学研究費・共同研究費等

田中則雄(研究代表者):平成19年度科研・基盤研究(C)「後期上方読本の小説史上の位置に関する研究」
野田哲夫(研究代表者):平成19年度科研・基盤研究(C)「中小企業のユビキタス・ネットワーク導入の実態調査とネットワーク効果の理論的研究」
作野広和(研究分担者):科学研究費基盤(A)「商品化する日本の農村空間に関する人文地理学的研究」
野田哲夫(研究代表者):平成19年度～20年度電気通信普及財団研究援助金「オープンソースソフトウェア(OSS)の開発方式と情報サービス産業のモジュール化の国際比較調査研究」
作野広和(研究代表者):「空き家地図情報システムにかかる調査・研究事業」(江津市移住・交流促進協議会との共同研究)
作野広和(研究担当者):「尾原ダム周辺地域活性化に向けた地域分析調査」(国土交通省中国四国整備局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所からの受託研究)

○産学連携・地域連携活動等

・セミナー

野田哲夫・ユビキタスエコノミー下における地域産業創出セミナー「ICTと豊かな資源が切り開く地域の未来」の開催(島根大学主催・島根県共催、2007年6月13日)

・講演

田中則雄「古典籍から見える人の営み—島根大学堀文庫のことなど—」
(島根県立図書館郷土資料モニター連絡会議における講演、2007年7月31日)
田中則雄「文化人としての大森泰輔—人間愛を説いた心学者—」
(大森文庫をテーマとする講演会、島根県立図書館、2008年3月9日)
作野広和「GISを活用した地域研究—地域づくりにおけるGISの役割—」
(第12回中国地区測量技術発表会における講演、2007年6月28日)
作野広和「『新たな公』と地域づくりへの参画」
(明るい選挙推進協議会中国・四国ブロック青年リーダー養成研修、2007年9月29日)
作野広和「地域の再構築」
(広島大学大学院地域経済研究センター第20回地域経済研究集会、2007年11月28日)
野田哲夫「ITを活用した地方都市における産業振興の可能性」
(しまね地域・自治 夏の学校、2007年8月18日)
飯野公央「大橋川拡幅問題と松江のまちづくり」
(しまね地域・自治 夏の学校、2007年8月19日)
飯野公央「地域資源を活用したまちづくり」
(松江市まちづくり講演会、2008年2月29日)

・公開講座 (島根大学公開講座)

第1回・要木純一(山陰の漢詩人のことなど、2007年12月20日)、第2回・蘆田耕一(出雲名所歌集と出雲国風土記、2008年1月21日)、第3回・田中則雄(堀文庫見学と解説、3月6日)

・展示

桑原文庫和歌資料展示(くにびきメッセ、2007年10月27、28日)
堀文庫展示(学舎のお宝展の一部として、島根大学、2007年11月)
大森文庫展示(「出雲国に伝播した華岡流医術とその時代」、島根県立図書館、2008年3月9日～14日)

・CD-ROM制作およびその配付による資料顕彰

蘆田耕一編「出雲国名所歌集・出雲国名所集」(付地名索引)(2008年2月)
田中則雄編「道話雑記」(付解題)(2008年2月)

・その他

松江白瀧天神町絵図と現代の地籍図との重ね合わせ
出雲の和歌閲覧システム(Windows版)

調査研究

山陰地域文化資源の調査研究

- ・和歌
- ・島根大学所蔵山陰文学関係資料
- ・山陰漢詩文壇 等

山陰地域歴史資源の調査研究

- ・たたら製鉄
- ・近世近代の石見の人口
- ・近世近代における風土記研究
- ・初代松江市長 福岡世徳の事績 等

可視化

「ひと」の生き様を
ビジュアルに捉える

- ・データベース化
- ・デジタル画像
- ・図録
- ・リーフレット

共同研究会の開催



プロジェクト

文学資源チーム

- ・出雲歌壇関係資料の調査
- ・堀文庫、大森文庫の調査
- ・山陰漢詩『松江竹枝』調査

歴史資源チーム

- ・石見銀山宗門改帳の分析
- ・田部長右衛門家文書の調査整理
- ・『出雲国風土記』の注釈研究資料の調査
- ・福岡世徳日記の整理

利活用チーム

- ・『出雲国名所歌集』のデジタル化
- ・松江市白潟天神町絵図の現代地図への重ね合わせ
- ・歴史文学を活用した観光まちづくりの調査
- ・松江市SNSの活用準備
- ・島大周辺の文化資産調査とマップ化

成果・アウトプット

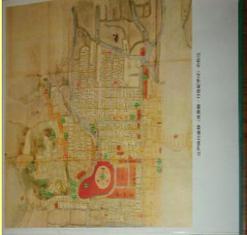
調査研究

- ・論文、学会報告、他
- ・蘆田耕一編『出雲国の四歌集』の刊行

利活用

- ・公開講座の開催(学内、県立図書館等)
- ・県立図書館 島大ミュージアム『学舎のお宝』展での松浦市長がお宝展を見学
- ・古地図との重ね合わせ






- ・松江散策マップ(橋北版)

今後の展開

研究の深化

共同研究、学際的
研究の継続



研究成果の普及

Web上での一般公開、講演会・展示会の開催

研究成果の活用

- ・観光との連携
- ・教育現場での活用
- ・公民館や地域での活用
- ・歴史・文化資源を活かしたまちづくりへの応用(島根大学旧奥谷宿舎を核とした城北地区のまちづくり)



⑩本研究プロジェクトの成果の公表計画について、なるべく具体的に記載してください。（論文の場合は予定題名、著者名、概要、投稿雑誌、投稿予定年月など。書籍の出版の場合は書名、著者名、概要、予定出版社、予定刊行年月など。なお、シンポジウム等は開催日等が確定している場合のみ、テーマ、主催者、会場などを記入してください。）

田中則雄「二葉の梅」(堀文庫蔵本)翻刻、全70ページ、私家版、2008年4月刊行予定

相良英輔「鉄方御用留」(田部家関係史料)翻刻、全80ページ、私家版、2008年7月刊行予定

大日方克己「松江藩と『出雲国風土記』」

(『山陰中央新報』連載「松江開府400年松江藩の時代」の1回分として掲載予定、2008年5月)

竹永三男「初代松江市長・福岡世徳の旅」(既発表論文のPDF化)

「初代松江市長・福岡世徳文書」(一)～(三)(翻刻史料のPDF化)

「地域を記録する志—『文字をもつ伝承者』田中梅治の思想と活動」(科研報告のPDF化)

以上を、竹永三男のウェブサイト収録し2008年3月に公開する。